

日本地衣学会

No.1

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	日本地衣学会設立にあたって / 会長.....	1
	日本地衣学会設立総会（評議員会）報告 / 庶務幹事.....	2
	2002年度予算計画 / 会計幹事.....	3
	ニュース.....	4

日本地衣学会の発足にあたって

（吉村 庸：日本地衣学会会長）

Compliments from the President

Dear members,

It is our great pleasure to establish the new society for lichens (The Japanese Society for Lichenology (official languages are English and Japanese), which will have annual meeting with scientific programs including a special symposium and oral presentations.

Not so many persons are interested in lichens, and lichenologists are still minor in the science; however, persons who are interested in lichens are gradually increased and their interested research fields become in great variety. Many persons in many fields in universities and colleges have studied lichens as a research object. To encourage young scientists and for developing Japanese lichenology, we intend to establish a new lichen society.

Anyone interested in lichens are welcome to our members.

Isao Yoshimura, The President

多くの方の期待を込めて2002年2月17日に日本地衣学会が誕生しました。

地衣類は分類が難しく、分類以外の分野にまで進出することが困難な状態が続いていました。朝比奈泰彦先生(1881-1975)をはじめとする先輩諸先生のご努力でようやく一般の方に大型の地衣類の名称がわかるよう



吉村 庸 日本地衣学会初代会長。
Isao Yoshimura, the 1st president of JSL.

になってきました。最近、地衣の培養技術が確立され、地衣類を実験生物学の材料とすることが出来るようになると、新しい分野が続々と開拓されるようになってまいりました。

日本の研究者も第一線で活躍し、培養は日本が代表するともいわれています。生理、生態、微細構造、生化学、DNAなどの研究から分類も再度見直されようとしています。環境指標としての地衣の重要性や、医薬品、香料、染料、食料などの応用面も注目を集めようとしています。これからの地衣学の発展には分類ばかりでなく、多くの分野からの情報と相互協力がますます必要になってきました。関連学会の動向に注意し誼を通じ、教を請い、情報を得て地衣学の発展に尽くさねばなりません。残念ながら、現在少なくとも研究技法などの点では菌学や藻類学の研究者に一日の長があります。国際的にも世界の地衣学者と情報を交換し、国際的に通用する研究レベルを維持発展させることも必要です。また、地衣学の発展のためには多くの若い人や初心者にも広く門

戸を開放し、啓蒙活動を続け地衣学の底辺の強化にも努めなければなりません。このような意味から、昨年多くの有志により設立準備会が発足しました。その努力の甲斐あって予想以上に多くの会員が集まりここに日本地衣学会が発足したことはご同慶の至りです。

会員は研究面では厳しく切磋琢磨しなければなりません、お互いに仲良く、助け合って共に地衣学の発展に尽くそうではありませんか。イギリスの地衣学会アメリカの蘚苔地衣学会が次第に発展し国際的な学会に成長していったように、我々の学会も日本での地盤を固めるとともに、アジアから世界へと発展していくことを念じます。会員の皆様の研究への精進と一層の協力をお願い致します。

日本地衣学会設立総会（評議員会）報告

（山本好和：庶務幹事）

設立総会は、2002年2月17日、高知学園短期大学(高知市)を会場に15名の参加者(および36名の委任状参加)により開催された。以下に、議事次第と議事録を紹介する。

1. 開会の辞(設立準備会代表世話人)

2. 議長選出

岡本達哉氏が議長に選出され、以下の議事を報告・審議した。

3. 日本地衣学会設立準備会報告事項(設立準備会代表世話人)

- 1) 地衣学会会則：準備会で作成した案が承認された。
- 2) 初代会長および初代評議員：準備会で選出された以下の会長、評議員が紹介された(敬称略)。なお会則では、初代会長および評議員は準備会で選出することになっている。

初代会長：吉村 庸

初代評議員：安斉 唯夫、岡本 達哉、木下 靖浩、高萩 敏和、棚橋 孝雄、中嶋 裕之、中村 薫、南 佳典、宮川 恒

4. 会長挨拶ならびに役員紹介(会長)：会則に基づき、会長は以下の役員を指名した。

(庶務幹事)山本 好和、(会計幹事)小峰 正史、(編集委員長)原田 浩

5. 議事

1) 提案・審議事項(庶務幹事)

1-A)2002年度事業計画案

【行動目標】

(あ)会則細則の整備(大会運営、評議員会運営、総会

運営、編集委員会運営、主催観察会運営、海外会員など)

(い)主要業務推進体制の確立(第1回大会・シンポジウム、学会誌、広報活動：HP、入会勧誘パンフ)

(う)各種委員会の発足(学術情報交流委員会、地域活性化委員会)

(え)目標獲得会員数

2002年2月12日現在

76名(一般57,学生6,海外0,団体3,名誉10)

2002年7月27日

87名(一般60,学生8,海外3,団体6,名誉10)

2002年12月31日

100名(一般65,学生10,海外7,団体6,名誉12)

2003年12月31日

125名(一般75,学生15,海外15,団体7,名誉13)

(お)学会誌購読機関、広告主獲得

2002年12月31日：学会誌購読 2

【事業計画】主題：「地球と人類の未来に果たす地衣学の役割」

(あ)主催大会、シンポジウム、観察会等

設立総会・記念講演(高知学園短大、2/17)

日本地衣学会第1回大会・シンポジウム(神戸薬大、7/27-28)。大会委員長：棚橋孝雄

植物学会大会シンポジウムまたは関連集会(京都、9/21-23)。世話人：山本好和・原田浩

第1回観察会(中部地区、秋季)。世話人：安斉唯夫

日本地衣学会設立記念岡山シンポジウム(岡山理科大、秋季)。世話人：浜田博喜

(い)印刷物発行

学会誌「Lichenology」1巻1号発行(6月下旬)

学会誌「Lichenology」1巻2号発行(11月下旬)

日本地衣学会 Newsletter 発行(6月,11月,他随時)

(う)広報活動

生物学ニュース投稿（大会予告，シンポジウム予告）

「ライケン」投稿（3月，掲載（？）6月）

海外アピール送付（2月，lichens-l@hawaii.edu）

IAL News Letter 投稿（大会予告：4月，掲載7月）

（え）インターネット関連（制作・運営：原 光二郎）

ホームページ仮立ち上げ

（http://www.kulawanka.ne.jp/~yozyamam/jsl）

（お）共催・後援

「地衣類の培養」講習会：秋田県立大学「市民講座」共催（8/下旬）

「各地区別観察会」：地衣類観察会共催

1 - B)2002 年度予算計画面（別紙参照）（会計幹事）

1 - C)名誉会員推薦：以下の10名が推薦され，承認された。既に本人からは承諾の返事とともに，学会設立の激励文(資料)が届いている。

Vernon Ahmadjian, Teuvo Ahti, William L. Culberson, John A. Elix, G. B. Feige, Margalith Galun, David L. Hawksworth, Aino Henssen, Siegfried Huneck, Mark R. D. Seaward

6. 報告・協議事項（庶務幹事）

1) 日本地衣学会第1回大会・シンポジウム

・設立記念国際シンポジウム運営案

海外招待予定者：T. Lumbsch (Essen Univ.),

F. Luzuoni (Duke Univ.)

招待費用：総額50～60万円

運営費用：大会補助金，特別参加費，広告費，寄付

2) 日本地衣学会第2回大会・シンポジウム案：関東地区で開催にむけ会場選定調整中。2003年7月下旬予定。

3) 入会勧誘パンフレット：案（見本）を作成した。

4) 学術情報交流委員会，地域活性化委員会：発足に向けて調整する。後日，会長が委員を指名し，会員に紹介されることになる。

5) 編集委員会（編集委員長）：（あ）委員の人はなるべく広い分野をカバーできるよう考慮した。国内から4名(委員長含む)，国外から1名。（い）雑誌スタイルはほぼ確定(資料)，投稿規程もおおよそ固まった。原稿募集中。（う）ニュースレターのスタイル案(資料)を作成した。

6) 海外会員細則について：会費設定，会費の納入方法など検討した。

7) 名誉会員推薦内規について：名誉会員を選出するための内規等ルールが必要との結論を受け，事務局で案を作成することになった。

7. その他

監事（2名）選出（評議員会）：評議員の互選により高萩敏和・宮川恒両氏が監事に選出された。

2002年度予算計画

小峰正史（会計幹事）

設立総会で提案された2002年度予算案は，一部修正を加え承認された。以下に予算計画を示す。会則によれば本会の会計年度は1月1日に始まり12月31日に終わるが，本年度は学会設立の2月17日に始まることになる。

収入

学会費				
一般会員	¥4,000	×	52 名	¥208,000
学生会員	¥2,000	×	5 名	¥10,000
団体会員	¥10,000	×	3 団体	¥30,000
設立寄付金				¥320,000
学会誌等収入 (内訳:広告料, 購読料, 投稿料等)				¥0
			計	¥568,000

支出

学会誌				
印刷費	¥160,000	×	2 回	¥320,000
郵送費	¥23,000	×	2 回	¥46,000
ニュースレター				
印刷費	¥4,000	×	2 回	¥8,000
郵送費	¥2,000	×	2 回	¥4,000
評議員会経費				¥0
編集委員会経費				¥0
総会経費				¥0
大会・シンポジウム運営費				¥100,000
事務局経費				
通信費				¥10,000
消耗品費				¥20,000
予備費				¥60,000
			計	¥568,000

ニュース

設立総会記念講演会

2002年2月17日、設立総会が終了の後、同じ場所を会場として、吉村会長による「地衣類研究小史」の講演があった。地衣類研究者の系譜も含め、日本における地衣学の歴史を振り返り、最後に地衣学会の設立と将来の展望を語るものだった。地衣類研究史が長い吉村先生ならではの講演だった。(原田浩：編集委員長)

各種委員会の設置

当会の活動を強化するため、次の委員会を設置しました。

地域活性委員会（2002年2月17日設置、3月21日委員長・委員任命）

委員長：安斉 唯夫、副委員長：木下 靖浩
原 光二郎、小林 寿宣（北海道・東北地区）
木下 靖浩、安斉 唯夫（関東・中部地区）
高萩 敏和、坂東 誠（近畿地区）
岡本 達哉（中国・四国・九州地区）

学術情報交流委員会（2002年2月17日設置、3月21日委員長・委員任命）

委員長：岡本 達哉
岡本 達哉（担当学会等：日本植物分類学会、日本分類学会連合、自然史学会連合）
大石 英子（日本蘚苔類学会）
出川 洋介（日本菌学会）
永瀬 裕康（日本生物工学会）
奥山 恵美（日本薬学会、日本生薬学会）
宮川 恒（日本農芸化学会）
岩崎 郁子（日本植物生理学会）
高萩 敏和（日本理科教育学会、日本生物教育学会）
原 光二郎（日本分子生物学会）
南 佳典（日本生態学会）

ホームページ運営委員会（2002年3月20日設置、委員長・委員任命）

委員長：原 光二郎
小峰 正史（事務局から）
原田 浩（編集委員会から）
安斉 唯夫（地域活性化委員会から）
岡本 達哉（学術情報交流委員会から）

（山本好和：庶務幹事）

編集委員会から

当学会の定期刊行物は「Lichenology」と「日本地衣学会ニュースレター」の2本立てとなりました。前者は学術雑誌として位置付け、論文と総説を主体とし、投稿しやすいように年2回の発行としました。本誌「ニュースレター」は、当学会に関する諸情報を会員に周知するとともに、会員からの声を掲載したいと考えています。発行は随時ですが、皆さんのお手元には、基本的にはLichenologyの年2回の発送に併せて同封されて届くこととなります。インターネット上では、発行直後には本学会のホームページで見ることができるように調整中です。

集まった「会員の声」をどのような形で本誌に掲載するか、これから検討していきます。内容は未定ですが、例えば、「学会にこういう事を期待したい」とか、「こういう事を知りたい」とか、いろいろと考えられます。そのようなご意見を掲載するだけでなく、可能な限り対処できるよう取り組んでいきたいと思っております。

Lichenology 日本地衣学会ニュースレターとも、
投稿先は：

原田 浩、〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館、Fax 042-266-2481。
E-mail: harada@chiba-muse.or.jp

なお両誌とも、著作権を著者から日本地衣学会に無償で移譲していただくこととなります。これは、将来、両誌の記事の一部を学会の活動のために使用したり、Lichenologyについては合法的な複製を可能にするためのものです。特に本誌ニュースレターについては、著作権移譲の契約書を作成することはありませんが、投稿される会員の皆様には、予めご承知おきくださるようお願いいたします。

（原田浩：編集委員長）

日本地衣学会ニュースレター

発行日：2002年3月30日

編集：日本地衣学会編集委員会

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内
